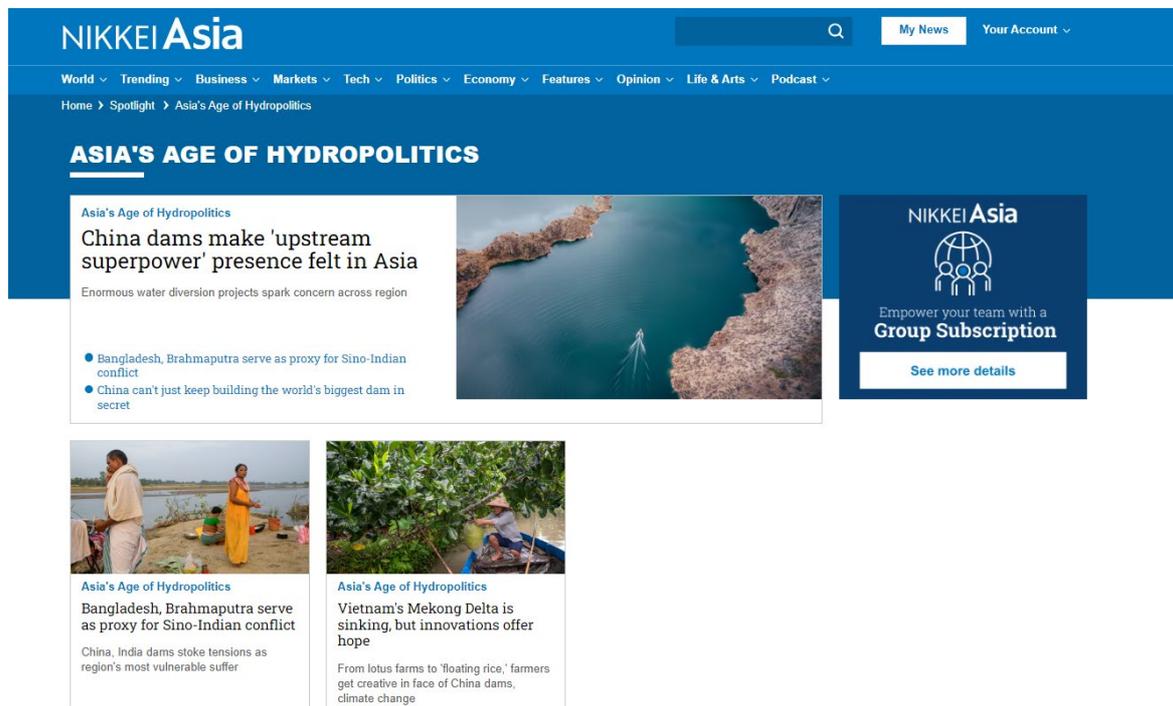


Nikkei Asia、2年連続で最優秀賞 アジア出版者協会賞



日本経済新聞社の英文媒体「Nikkei Asia」(<https://asia.nikkei.com/>)は20日、香港を拠点とするアジア出版者協会(SOPA)の2024年協会賞のグローバル枠で最優秀賞を受賞しました。欧米の主要メディアが競う同枠においてNikkei Asiaが最優秀賞を受賞するのは2年連続となります。

受賞したのは23年7月に公開し、アジアの水資源を巡る地政学動向に迫った連載企画「アジアのハイドロポリティクス(Asia's Age of Hydropolitics)」(<https://asia.nikkei.com/Spotlight/Asia-s-Age-of-Hydropolitics>、米州編集総局・姚柏穎記者、ニューデリー支局・キラン・シャルマ記者、ホーチミン駐在・リエン・ホアン記者らが執筆)。国際河川に相次ぎダムを建設する中国と、水不足の脅威に直面する下流地域との政治的摩擦などについて現地取材し、豊富な写真やデータを盛り込みビジュアルにうったえる同企画は、審査団に「極めて重要なのに注目されてこなかったテーマについて『素晴らしい全体像』を描き出した」と評価されました。

Nikkei Asia の中山真編集長は今回の受賞について「グローバルメディアとして質の高いジャーナリズムを発信し続けていることを裏付けるものだ」と述べ、「アジアが直面する問題をアジアの視点から取材できるメディアとして成長を続けたい」としています。

アジアのハイドロポリティクスは3月、ビジネスジャーナリストの団体である米 SABEW（ソサエティ・フォー・アドバンシング・ビジネス・エディティング・アンド・ライティング）の「エネルギー・サステナビリティ・気候変動」部門でも最優秀賞を受賞しています。

革新的報道部門では日経グループの英フィナンシャル・タイムズ（FT）が最優秀賞を受賞しました。中国にあるイスラム教寺院・モスクが当局によって中国風に改修されていく様子を、衛星写真やドローン撮影を駆使して描きました。

SOPA はジャーナリストでつくる非営利団体で、賞はアジア太平洋地域に関する優れた報道を表彰するため1999年に創設されました。今回の対象は23年に公開された記事。メディアの展開地域などに応じて英語のグローバルとリージョナル、中国語などの枠があり、Nikkei Asia は21年からグローバル枠で参加、23年に女性テーマ部門で日本メディアとして初めて最優秀賞を獲得しました。

〈Nikkei Asia について〉

成長著しいアジアの経済圏の実像をアジアに籍を置く日本経済新聞ならではの視点で発信する英語のサービスです。アジアに密着した取材網を生かし、深掘りした独自記事を数多く公開。日経の翻訳記事も含め、経済の専門家による寄稿、知識人の洞察、見解、分析を交え、アジアのいまをお伝えしています。アジアの未来を担う世界中のリーダーたちや、アジアについて詳しく知りたいという方々のために、バイアスのない「真のアジア」を提供します。

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は1876年以来、140年以上にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約1500人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の販売部数は140万部、2010年3月に創刊した「日本経済新聞 電子版」をはじめとするデジタル有料購読数は112万です。

本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 [TEL:\(03\)3270-0251](tel:0332700251) (代表)